

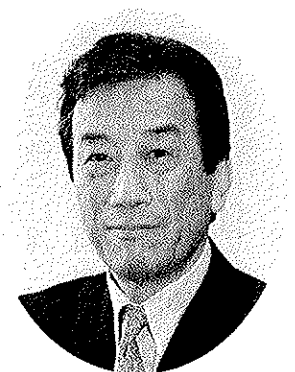
イノベーションで切り拓く

日本の未来

イノベーション25戦略会議座長
内閣特別顧問

黒川 清

くろかわ きよし



激化する国際イノベーション競争

日本、世界のこれからの二〇年を概観すると、第一に、グローバル化の進展、アジア等の新興国の急激な経済成長が見込まれる。これにより、世界全体のGDPに占める日本の割合は小さくなり、わが国の経済的地位は相対的に低下することが見込まれる。

第二に、世界人口の爆発的な増加が見込まれる。これにより、資源・エネルギー問題、環境問題、食料・水問題の深刻化、南北格差の拡大、都市の人口過密が進展し、都市の生活環境の悪化が見込まれる。

第三に、わが国における少子高齢化・人口減少社会の進展が見込まれる。これにより、生産年齢人口の減少とその世代の負担増、地方の過疎化の進展により、地域コミュニティの維持が困難になる恐れがある。

第四に、世界の主要各国は、国際競争力を

高めそれを維持する上で科学研究と科学技術、さらにその成果をできるだけ速やかに国内外で社会的価値あるものにすることを重視するイノベーションの分野において、ますます競争が激しくなると見込まれる。

日本の強みと弱み

グローバル時代には、スピードこそが重要になる。日本の「強み」と「弱み」を認識しながら、社会的価値の創造を戦略的に進めることが重要である。日本の強みは「ものづくり」、「完ぺき主義」、「凝り性等」、弱みは「閉鎖性」、「俯瞰的視点の弱さ」、「個人力」、「お上頼み心理」、「たて社会」、「組織人間」等の言葉で表現できる。

日本のものづくりでは中小企業に優れた技術がある。たとえば、世界中の携帯電話の内部部品の六五%が日本製なのである。しかし、携帯電話の世界市場における競争では、日本

のメーカー十数社が製造、販売しているにもかかわらず、Nokia, Motorola, Samsung各社にも及ばない。日本の強さと弱さがどこにあるのか、明らかであろう。

また、ソーラーパネル、光触媒、水処理等々の技術は日本が世界で一番進んでいる。これから急速に都市化するアジアの抱える環境問題への貢献が期待されている。

イノベーションとは

イノベーションとは、これまでのモノ、仕組みなどに対して、全く新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすことである。つまり、イノベーションは研究開発や製造プロセスだけでなく、組織やサービス、マーケティング、ブランドづくりなどあらゆる社会の仕組みの革新を指す。モノではなく、それを使って既存のものに新しいものを吹き込み、既存の価

値や組織を破壊し、新たな富、価値を創造し、どんな社会にするか、といったことがイノベーションを創造する上で重要なのである。グローバルの時代の社会的価値を考えると、世界的課題、つまり地球温暖化、環境、貧困、人間の安全保障等々からの視点は重要である。

二〇年前を振り返る

今から二〇年前を考えると、今では世界に普及している携帯電話やインターネットなどは、一般的ではなかった。インターネットは技術的につながられるだけでなく、アクセス料を劇的に下げるビジネスモデルができ、一気に広がり、新しい画期的なビジネスがいくつも誕生した。液晶、プラズマなどのディスプレイは、テレビ、携帯電話、カーナビなどに使われるようになり、あつという間にブラウン管に取って代わった。これまで、さまざまな製品やサービスが国民生活に大きな変革をもたらしてきた。宅配便や引越サービスも、起業家が、周囲の圧力や規制にかかわらず、生活者の視点から強い意志をつらぬき、われわれの生活に浸透した。内容の魅力に加え、使いやすさを高めて普及させないとイノベーションにはならない。社会に、生活にとってよいという理

念と情熱を持って、アイデアを実社会の仕組みにつなげるには、生活者の視点が大切である。この「生活者」は日本だけではない、成長するアジア、そして世界の生活者なのである。

イノベーション創出のために 欠かせないもの

イノベーションには、生活者の視点、異分野の融合、産学官や異業種の連携、海外との連携等が必要だ。科学研究、科学技術力を核としたイノベーションが日本各地で起こるためには、環境づくりが欠かせない。

ここでもっとも大切なのは、「人」である。戦略的に思考し、豊かな創造性、高い起業家精神を持ち、独立した思考を持ち、行動できる人たちが多く存在すること、状況によってダイナミックに変化する柔軟性の高いチームやその集まりである組織、企業が、次々と出てくる必要がある。また、グローバル化が進展する中、大きな目標と広い視野も重要である。企業の方々には海外にも視野を広げ、人脈を広げ、世界の市場展開を図るとともに、地球規模で本当に何が必要とされているかを深く洞察し、活動していただきたい。大いなる挑戦をする「人」こそが日本のイノベーションの源である。

イノベーション25戦略会議

政府としてもイノベーションの重要性が認識されており、安倍総理は所信表明演説で「イノベーション25」を打ち出した。イノベーション25とは、成長に貢献するイノベーションの創造に向け、医薬、工学、情報技術などの分野ごとに、二〇二五年までを視野に入れた、長期の戦略目標である。高市早苗大臣が担当を命じられ、高市大臣のもとに産学の有識者からなるイノベーション25戦略会議が設置された。私は、内閣特別顧問に招聘された。この会議を取りまとめることになった。

生産性を高めながら持続的に成長する社会、安全・安心、便利な社会、世界の人々が日本で活躍し、日本人が世界で活躍する社会、世界に冠たる日本の強みである環境科学技術で世界の環境問題の改善、解決等に大きく貢献する、といった二〇年後の日本の姿を目指し、技術の進歩や暮らし方の改革などを含めた道筋を明らかにしていきたい。

二〇年後、イノベティブな人間が多く輩出され、存分に活躍し、創造的破壊、イノベーションが次々と起こる活力ある社会を作り上げるため、今こそ多くの課題を乗り越えて、思い切った政策を次々と実行に移すときではないか。